

2004年3月期
第1四半期説明会

2003.8.8

ヤマハ株式会社

1Q決算の概要

売上高は、対当初予想減収、対前年同期増収
AVが北米を中心に対当初予想を下回った
一方、半導体はほぼ計画どおり

営業利益は半導体の寄与により、当初予想に対し
若干の増益

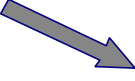
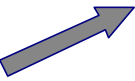
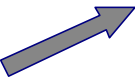
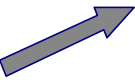
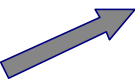
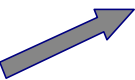
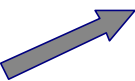
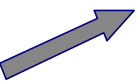
事前のユーロ売り予約によるヘッジ実施により、
1Qでのユーロ高に伴う為替益は、ほぼゼロ

1Q末在庫は、当初予想に対し増加
楽器、AV、半導体の在庫増が主因

04/3期1Q業績概要

(億円)

▶ 当初予想に対し減収増益

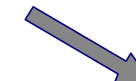
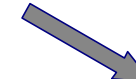


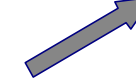
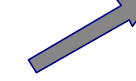
	1Q実績	対 当初予想	対前年
売上高	1,261		
営業利益 (営業利益率)	118 (9.4%)		
経常利益 (経常利益率)	134 (10.6%)		
当期利益 (当期利益率)	126 (10.0%)		

為替レート		1Q	当初予想	前年
売上高	US\$	118	120	127
	EUR	135	125	117
利益	US\$	119	120	126
	EUR	124	125	114

04/3期1Q事業別売上高

➤1Qは、景気低迷、SARS影響により、売上は総じて目標を下回る

(億円)

	1Q 実績	対当初予想		対前年	
		為替影響	実質 +/-	為替影響	実質 +/-
楽 器	726	+7		+2	
A V ・ I T	142	+3		+3	
リ ビ ン グ	113				
電子機器・金属	169				
レクリエーション	48				
そ の 他	63				
計	1,261	+10		+5	

* 実質 +/- は為替影響を除いた対当初予想及び対前年の増減

04/3期1Q事業別営業利益

➤ 1Q利益は概ね当初予想に対し増益

(億円)

	1Q 実績	対当初予想		対前年	
		為替影響	実質 +/-	為替影響	実質 +/-
楽 器	55		→	+4	↘
A V ・ I T	2	1	→	+4	→
リ ビ ン グ	4		→		→
電子機器・金属	61		↗		↗
レクリエーション	4		→		↗
そ の 他	0		→		→
計	118	1	↗	+8	↗

* 実質 +/- は為替影響を除いた対当初予想及び対前年の増減

2-4Q期の事業環境

- 全体
 - ・世界景気は不透明感継続、SARS不安後退
- 楽器
 - ・消費市場としての中国のプレゼンス拡大
 - ・アコースティック分野での中国製品の台頭
- AV・IT
 - ・ホームシアター市場の構造変化と競争激化
 - ・デジタル化、ネットワーク化の進行
- リビング
 - ・新築住宅着工数減少継続
 - ・業界は、リフォーム需要に向けた動き活発化
- 半導体
 - ・携帯電話での和音(複音)機能搭載が欧米で増加の動き
- 電子金属
 - ・半導体、電子部品用材料市場は引き続き堅調
- レクリエーション
 - ・国内景気の低迷継続とライフサイクルの変化

04/3期 業績予想

➤ 2-4Q為替レートは、当初どおりのUS\$=120円、EUR=125円を前提

(億円)

	中間期			通期		
	04/3 (当初予想)	04/3 (今回予想)	03/3 (前年実績)	04/3 (当初予想)	04/3 (今回予想)	03/3 (前年実績)
売上高	2,690	2,640	2,537	5,470	5,410	5,247
営業利益	185 (6.9%)	205 (7.8%)	131 (5.2%)	320 (5.9%)	340 (6.3%)	320 (6.1%)
経常利益	195 (7.2%)	215 (8.1%)	142 (5.6%)	350 (6.4%)	370 (6.8%)	338 (6.4%)
当期利益	170 (6.3%)	190 (7.2%)	100 (4.0%)	290 (3.5%)	310 (5.7%)	179 (3.4%)

為替レート		04/3 (当初予想)	04/3 (今回予想)	03/3 (前年実績)	04/3 (当初予想)	04/3 (今回予想)	03/3 (前年実績)
売上高	US\$	120	119	123	120	120	122
	EUR	125	130	117	125	127	121
利益	US\$	120	120	122	120	120	122
	EUR	125	125	115	125	125	116

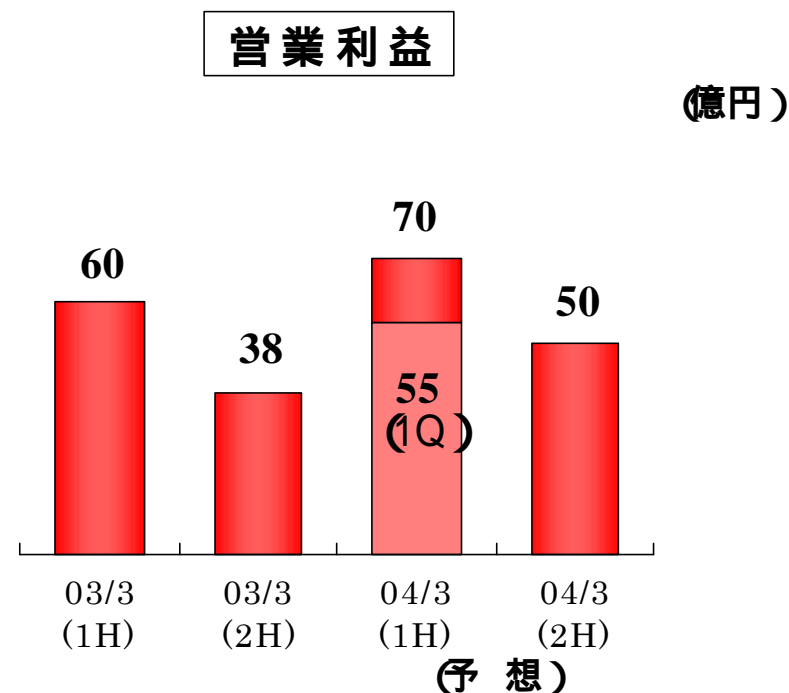
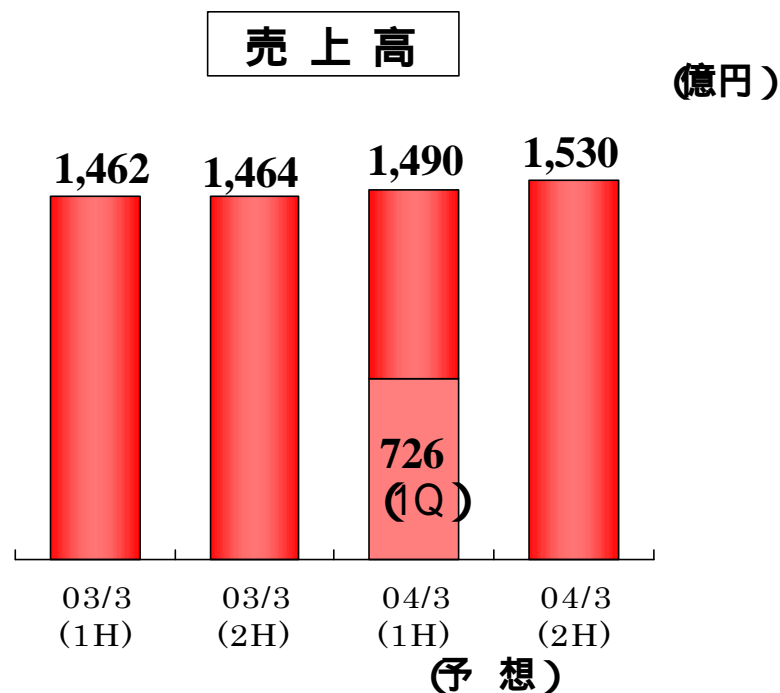
楽器事業

1Qの状況

- ・アメリカ市場は、期初での流通在庫調整に伴う売上減が響き、当初予想、前年比とも減収
- ・SARS禍による、中国、台湾、シンガポールでの販売低迷と中国市場政策の遅れ
- ・1Q末在庫は管楽器、ギターを中心に当初予想に対し増加
- ・コンテンツは国内競争激化、海外は徐々に拡大の兆し

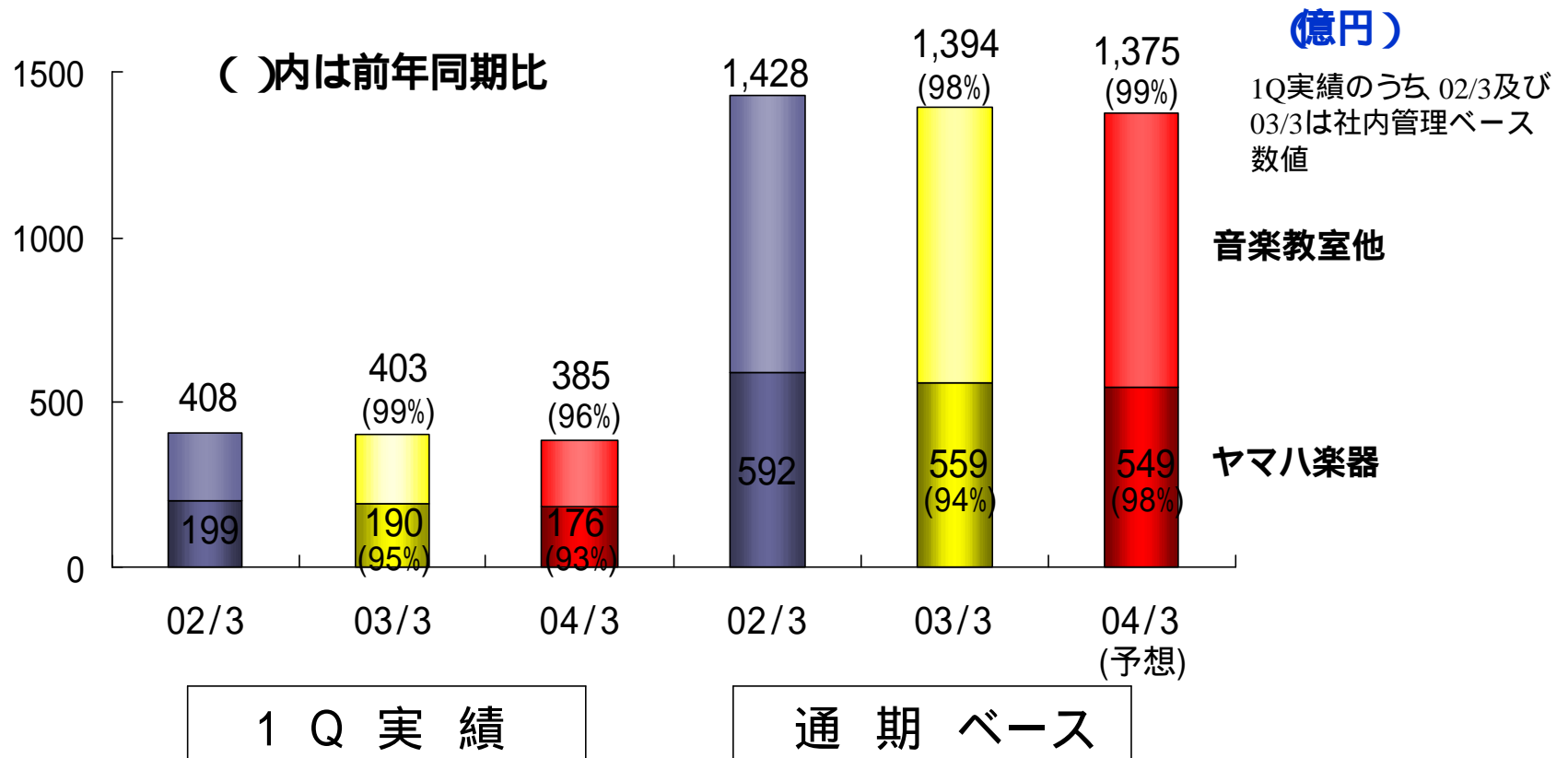
2-4Qの重点施策

- ・在庫調整が一巡したアメリカ市場での拡売
- ・欧州市場での安定成長継続とSARS鎮静化後のアジア市場での挽回
- ・国内は成人需要開拓と業務効率化による収益力改善
- ・中国市場での基盤構築



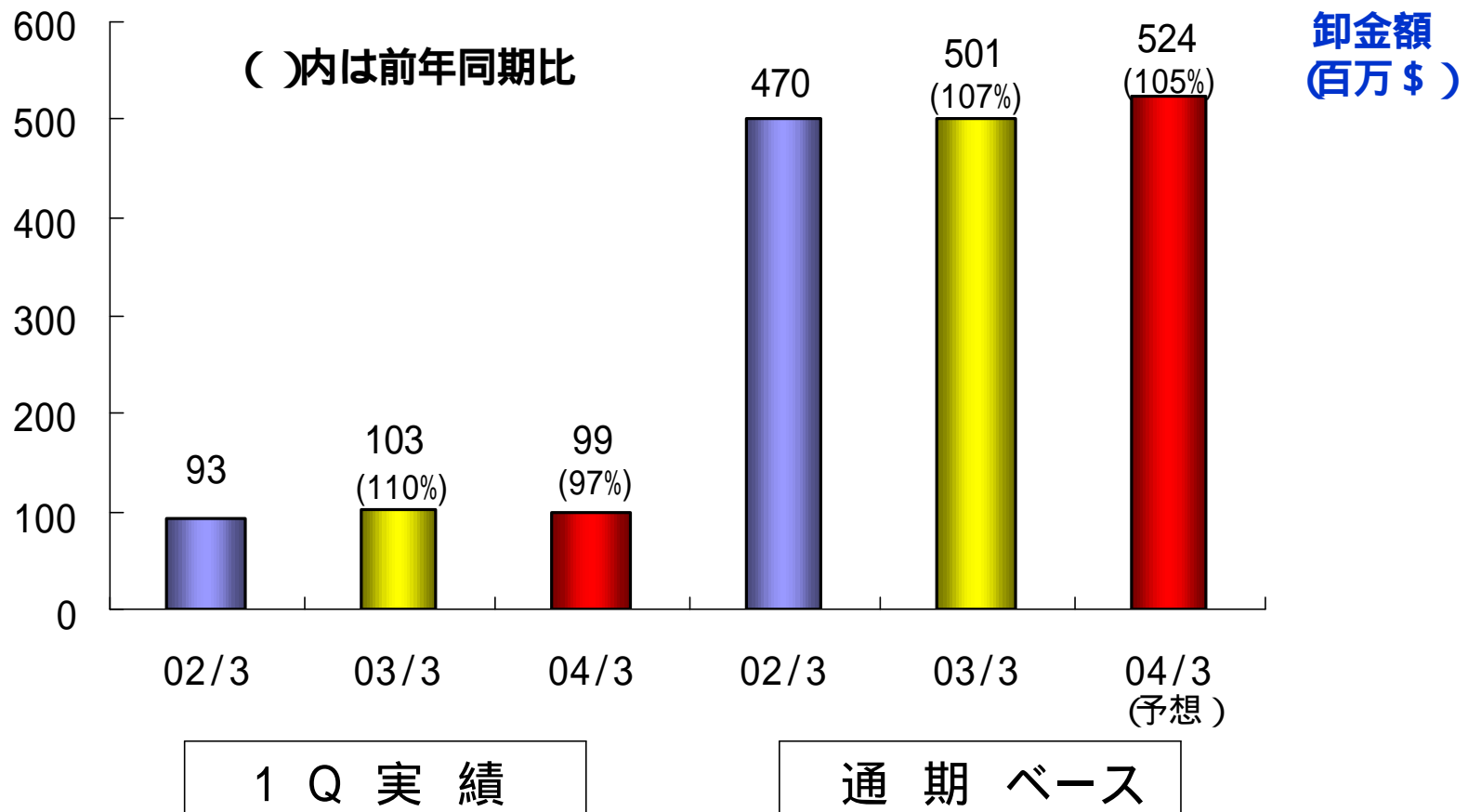
日本市場の楽器販売状況

1Qでは、エレクーンが前年同期を大幅にショートした以外、
その他の商品はほぼ前年並み。通期では、前年並み売上が目標。



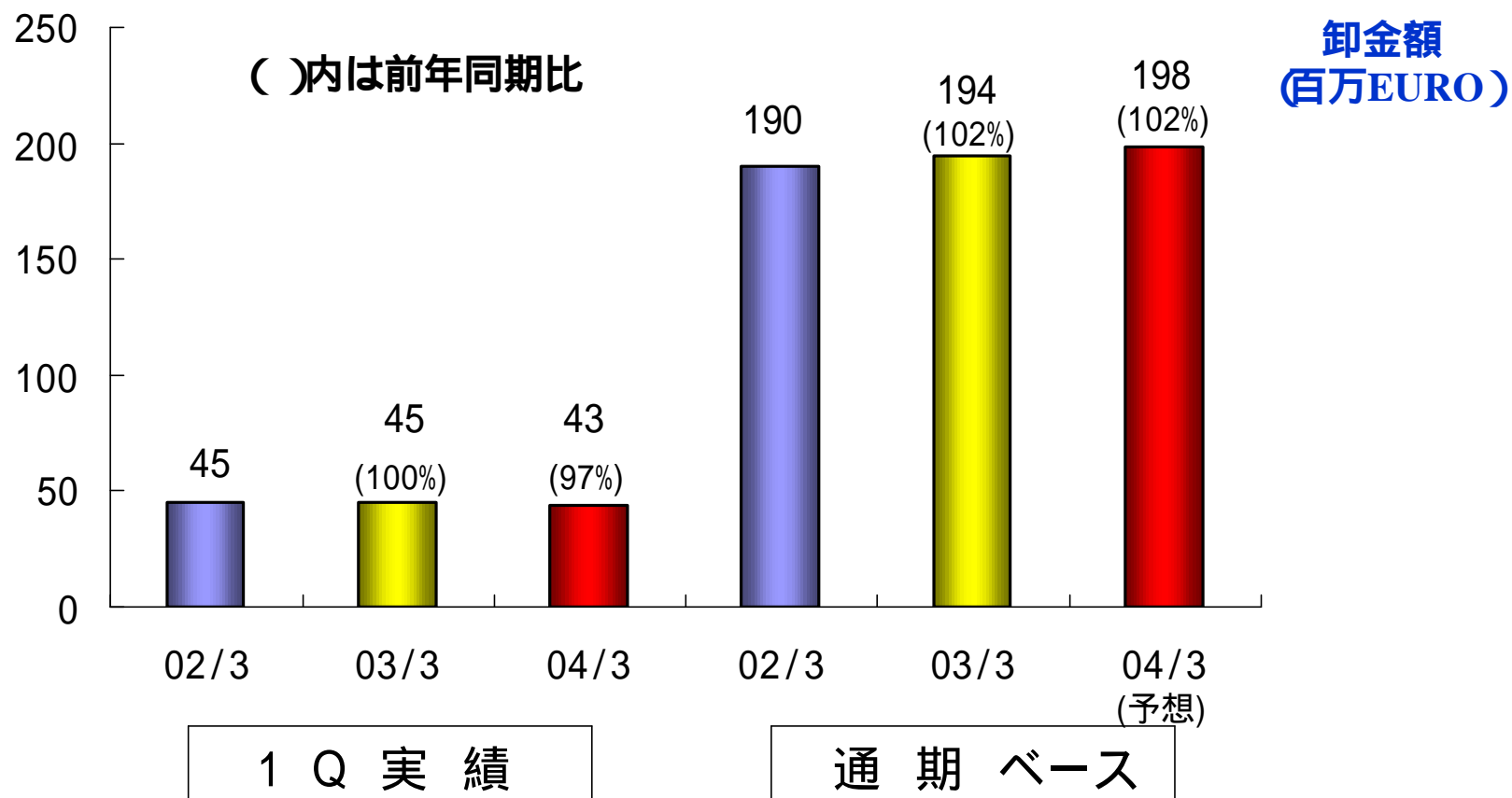
アメリカ市場の楽器販売状況

流通在庫調整に伴い、4~5月は計画割れが続いたが、6~7月とヶ月連続で計画を上回っており、第2四半期以降で挽回予定。通期では、前期比105%を目指す。



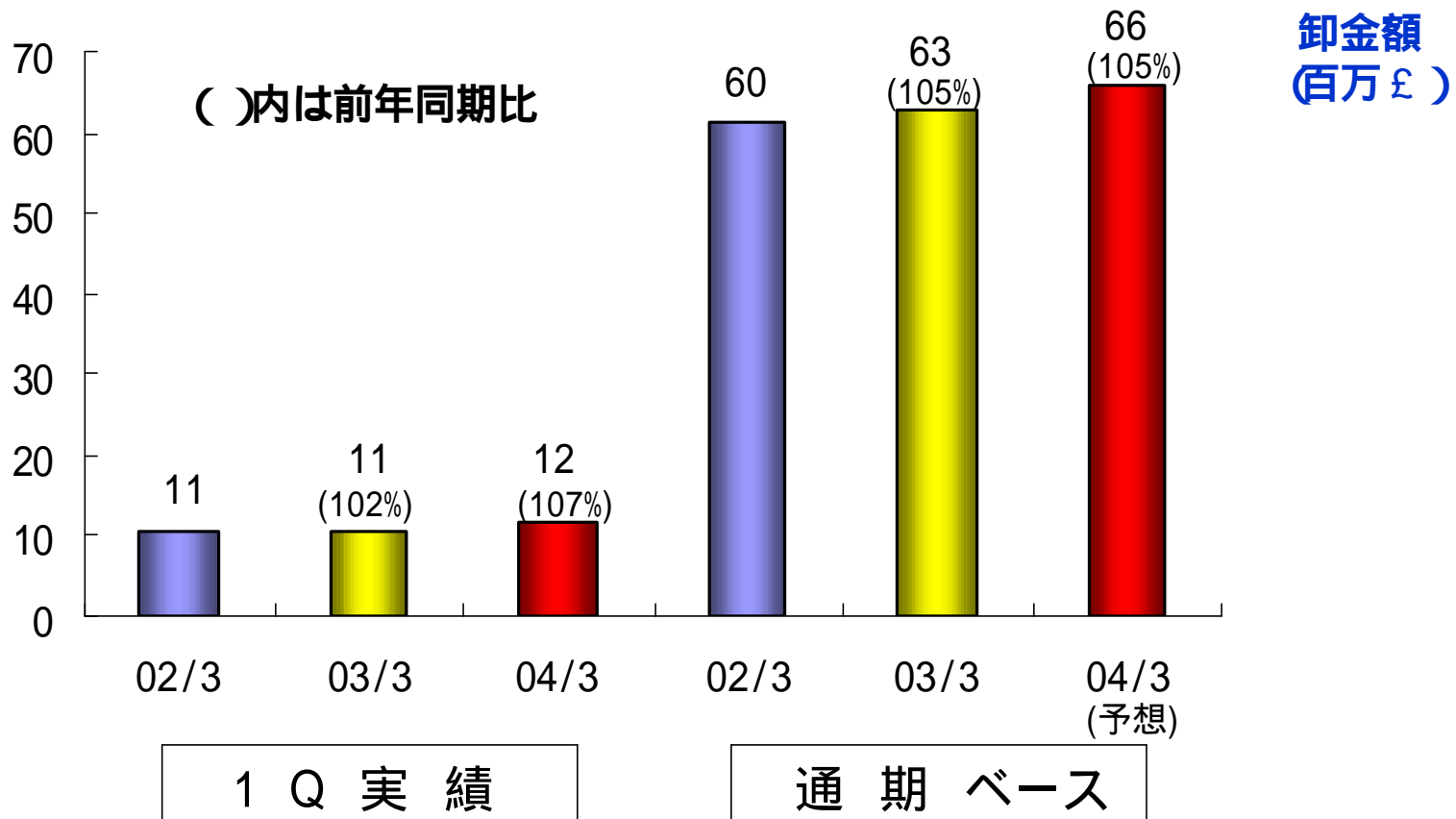
ドイツ市場の楽器販売状況

ドイツ市場は依然スローだが、6月は計画を上回っている。
電子楽器、ピアノとも堅調。今後専任組織化も含め、第1四半期での
PAの落ち込みをカバーする予定。



英国市場の楽器販売状況

第1四半期で対前年107%と好調な販売を維持している。特にアコースティック楽器(ピアノ・管)が好調。今後も引き続き好調を維持し、前年比5%増を目指す。



着メロ事業の進捗状況

国内

概況：

- ・市場は飽和状態。その中で新興勢力台頭し競争激化
- ・会員数確保のためのTV-CMを7～8月で放映
- 8月末で、約30万人の入会者増の見込み

海外

状況：

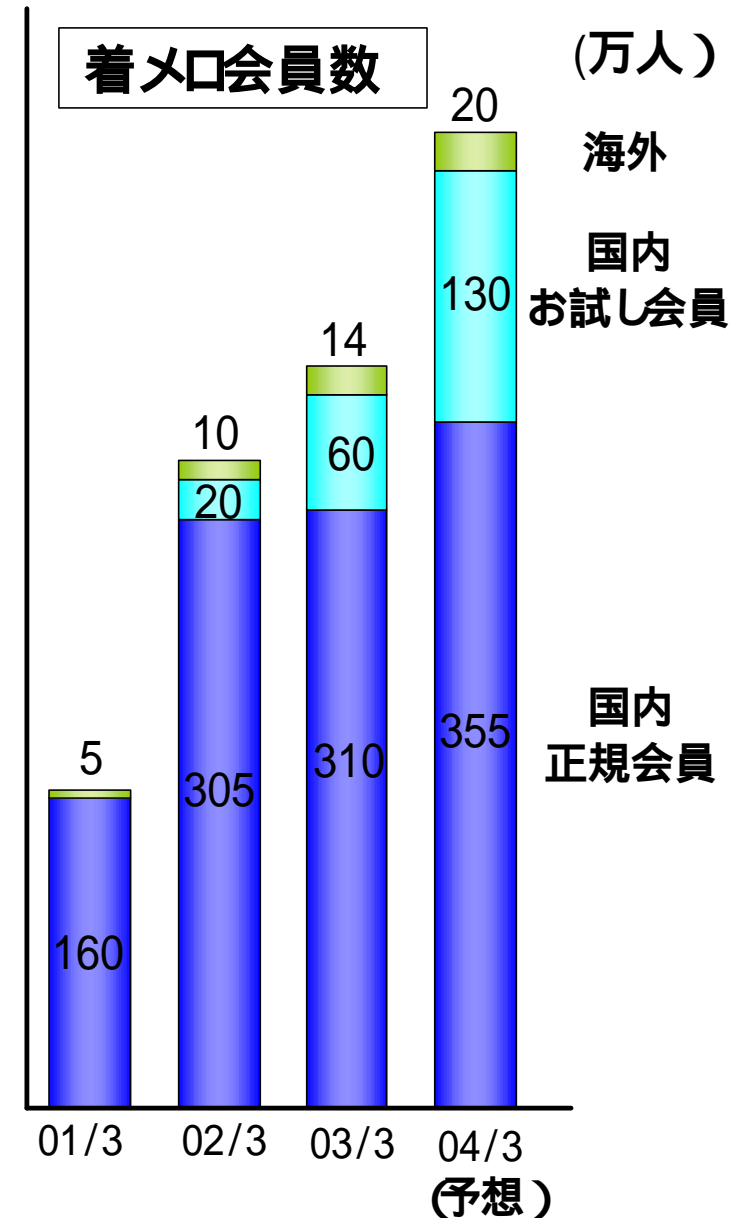
- ・和音端末の普及に合わせたモバイルコンテンツ市場は立ち上がりつつあるが、売上規模は未だ大きくない
- ・当初、欧州よりも導入が遅れると見られていた米国でVerizonの「get it NOW」対応端末 (Motorola :T720) が既に320万台普及し、コンテンツビジネスが急拡大

最近の展開状況

- ・アメリカ 「Yamaha Ringtones」 1.Verizon Wireless社 5/20～
2.AT&T Wireless社 7/21～
- ・スペイン 「Yamaha Supertonos」 Telefonica Móiles España社 6/下～
- ・中国 「鈴@YAMAHA」 中国聯合通信有限公司 7/1～

既展開国と通信業者

中国	æ-Dongcity, CMCC	台湾	:TCC, KGT, TAT, CHT
香港	Hutchison	スペイン	:Telefonica
ドイツ	E-Plus		
オランダ	KPN	ベルギー	BASE



AV・IT 事業

1Qの状況

競争激化と市場変化対応遅れにより欧米市場で計画未達

・SARS影響により中国販売不振

・1Q末在庫は当初予想に対し大幅増

2-4Qの重点施策

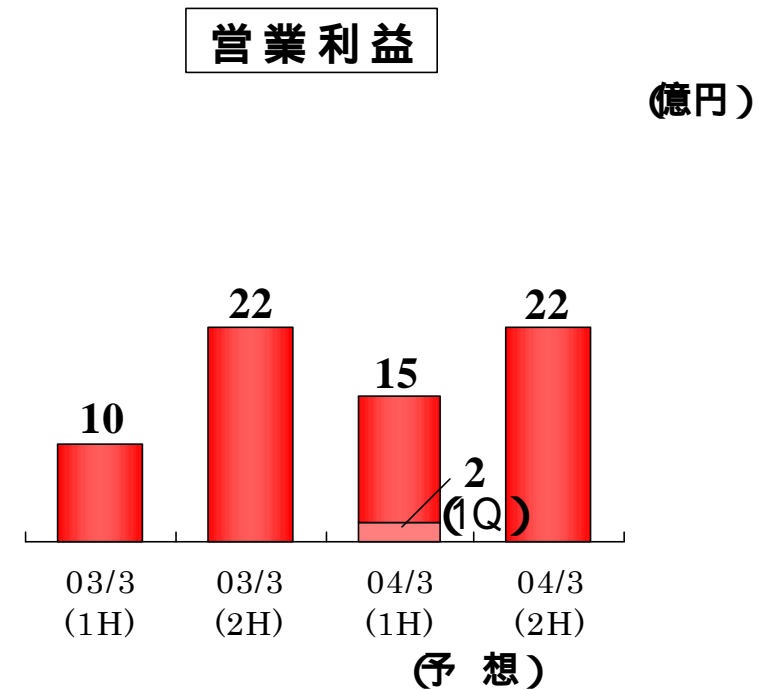
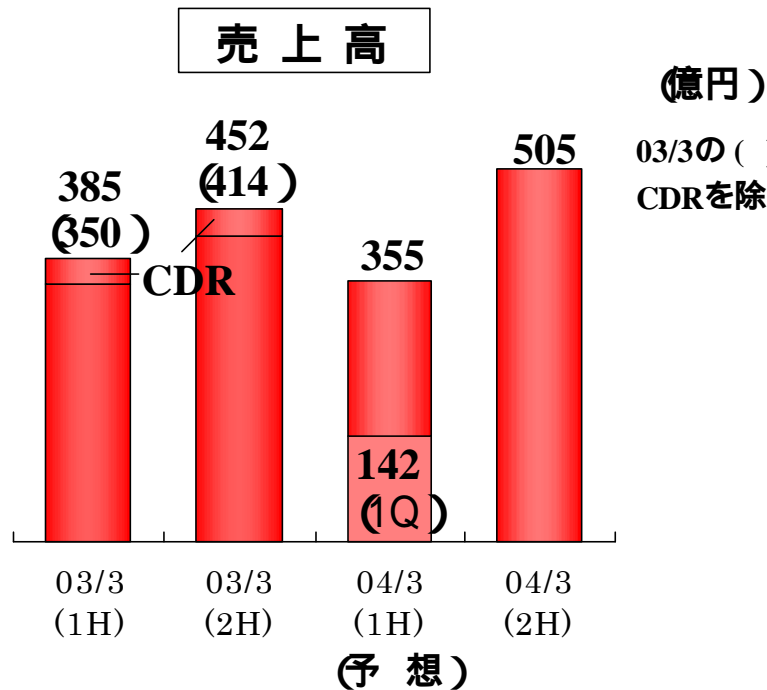
新商品の確実な市場導入による売上の確保

中高級AVアンプ・レシーバーでのシェア奪回

低価格ホームシアターシステム商品の市場投入による増売

映像、ネットワーク関連新商品での売上確保

・SARS影響により遅れた中国販売網の早期構築



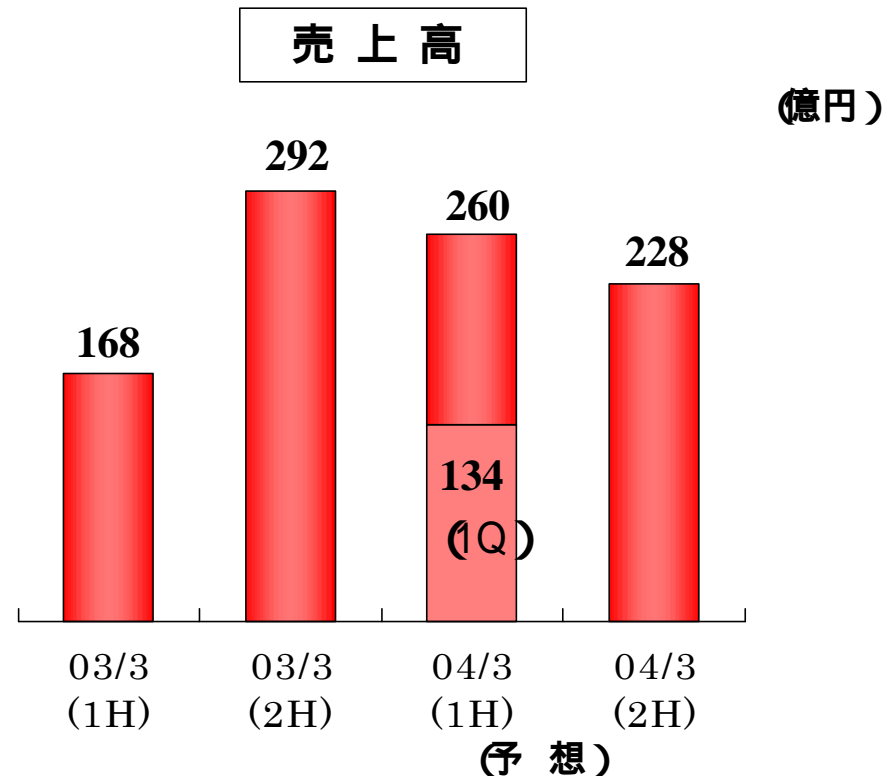
半 導 体 事 業

1Qの状況

韓国、中国ハンドセットメーカーでの在庫調整に伴い、携帯電話用音源チップの出荷は伸び悩み
手持ち在庫増加

2-4Qの重点施策

- 携帯電話用音源チップビジネスでの優位性確保
 - 在庫調整一巡後のアジア市場での増売
 - 市場が拡大する欧米での拡売
- 携帯電話用音源チップ以外の半導体ビジネス拡大
- 新規分野商品の開発



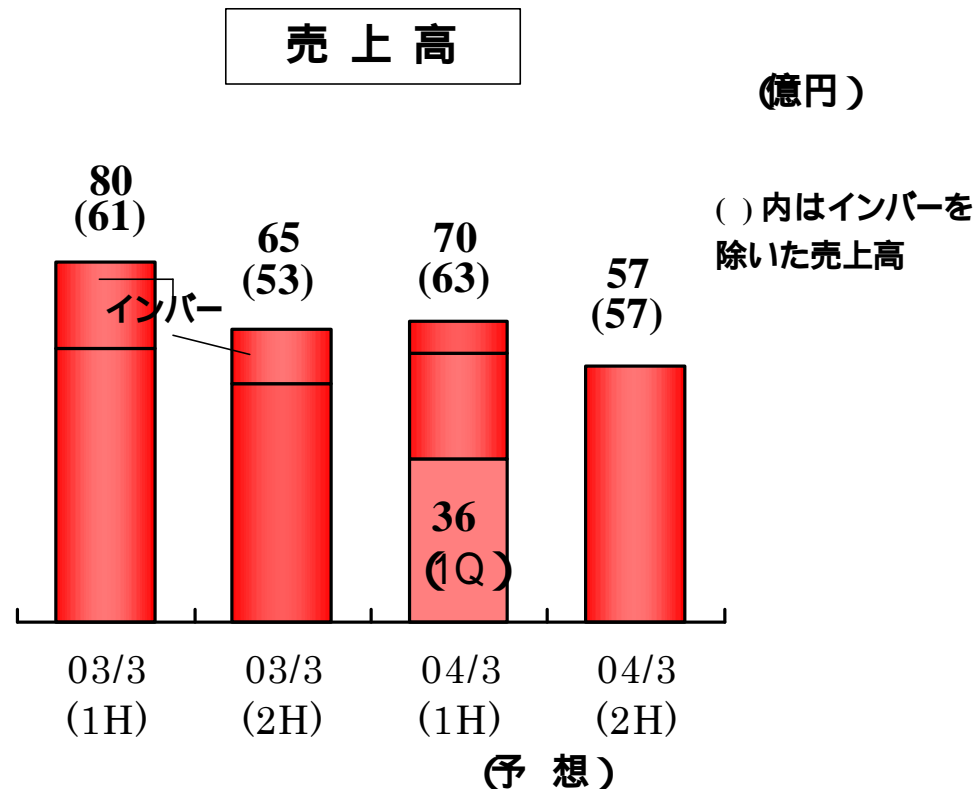
電子金属事業

1Qの状況

- インバー材生産は予定通り7月で終了
- 銅系リードフレーム材は実需に加え、SARS影響による材料確保の動きもあり順調に推移
- 携帯電話用材料も予定通りに推移

2-4Qの重点施策

- 銅系を中心とするリードフレーム材のシェア拡大と加工品ビジネス強化
- インバー終了後の生産設備の転用検討



リビング事業

1Qの状況

新築持家着工数は減少継続に伴い、売上は卸ルートを中心に低迷

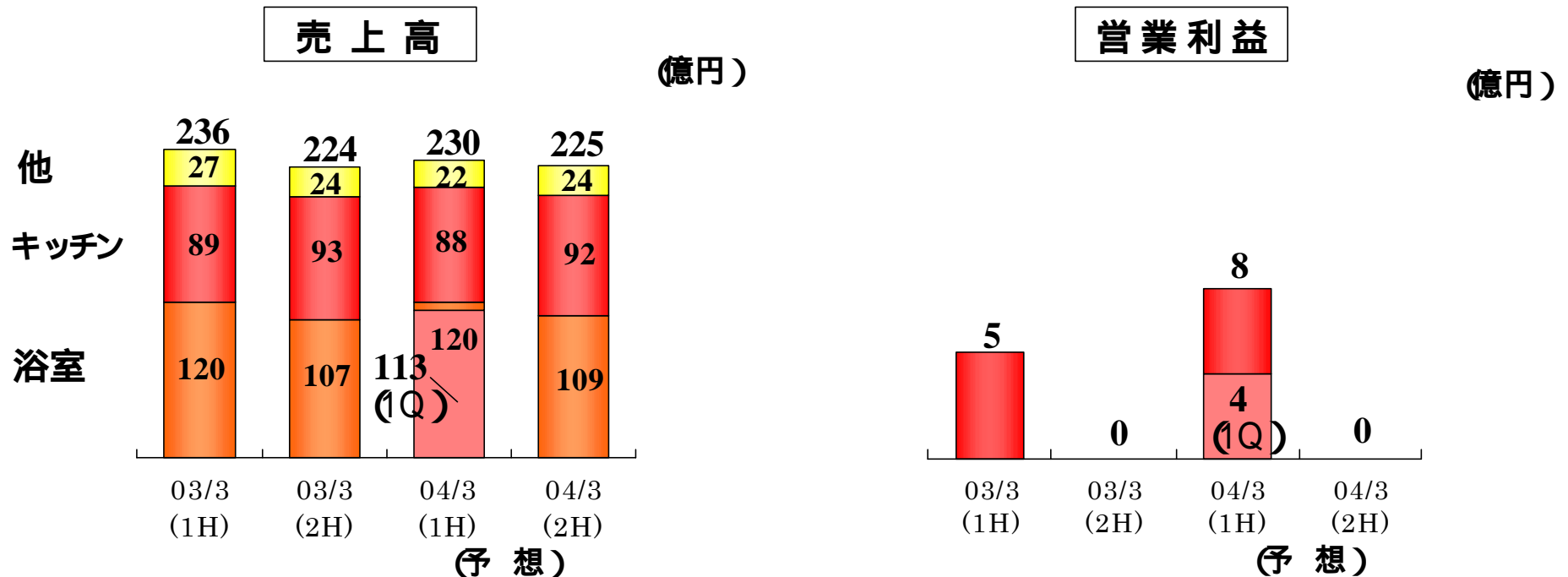
・エア・ウォーター・リビング社との提携効果は今のところ小さいものの、徐々に成果が出始めてきている

2-4Qの重点施策

・製造コストダウンを中心とした固定費圧縮による損益分岐点引き下げ

・エア・ウォーター・リビング社との提携効果拡大と商品開発力強化

・今後拡大が見込まれるリフォーム市場対応強化



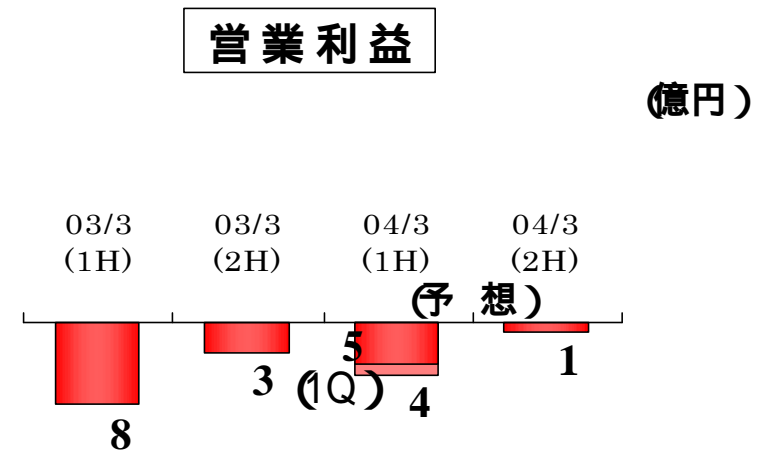
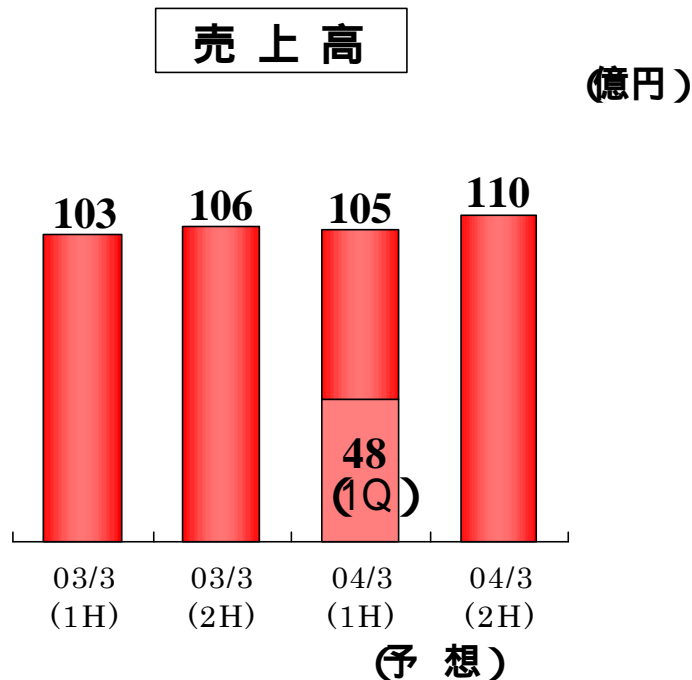
レクリエーション事業

1Qの状況

- 一部施設を除き、営業努力奏効し 集客増加
- 寸座ピラは予定通り6月末で営業終了

2-4Qの重点施策

- 年間集客数200万人確保
- 営業効率の向上と固定費圧縮による損益分岐点引き下げ
- 施設ごとの収益性を継続的にモニター



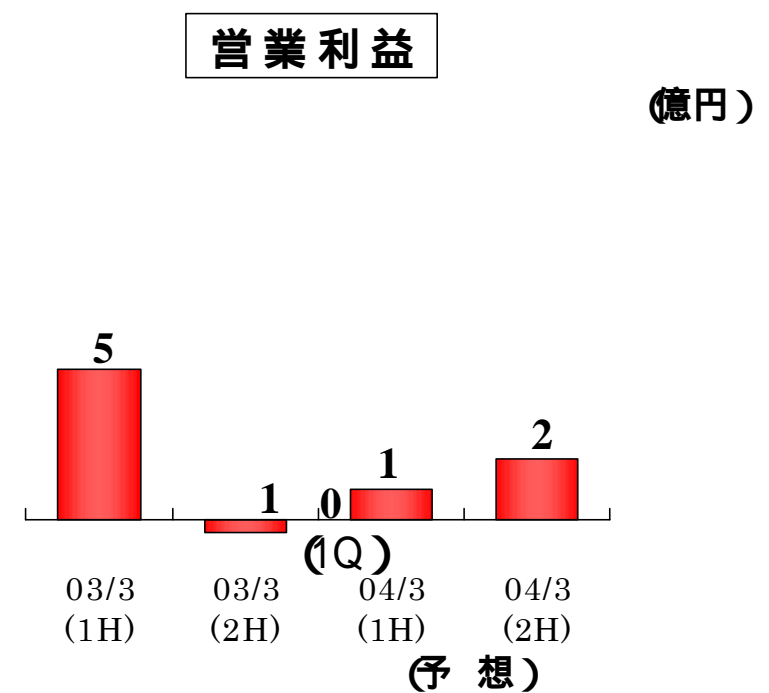
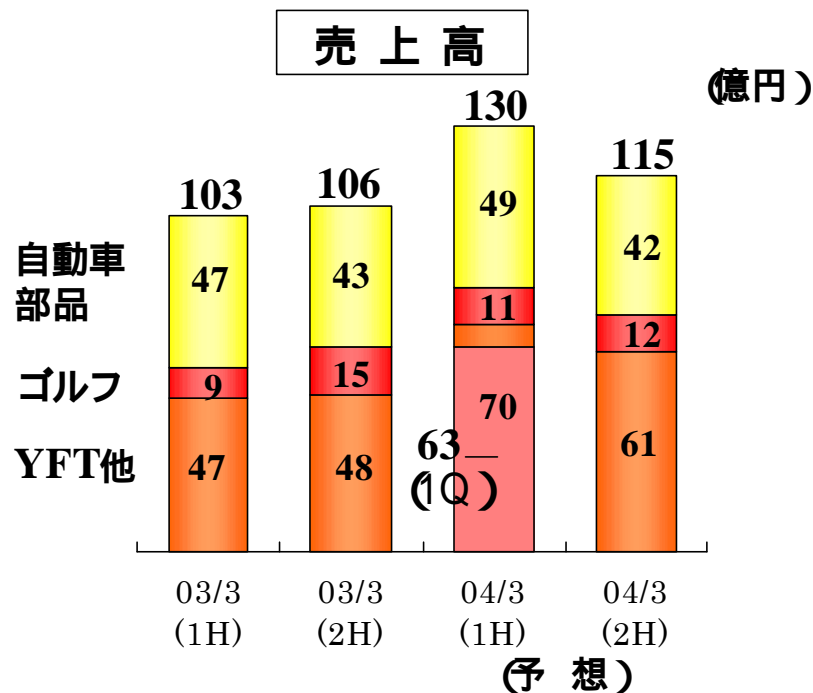
その他事業

1Qの状況

- ・携帯電話用Mg部品は、フル生産継続
- ・自動車用内装部品は競争激化により収益性低下

2-4Qの重点施策

- ・携帯電話用Mg部品の収益力強化
- ・自動車用内装部品コストダウンと新規顧客の拡大
- ・安定収益確保のためのゴルフ事業のビジネスモデル確立



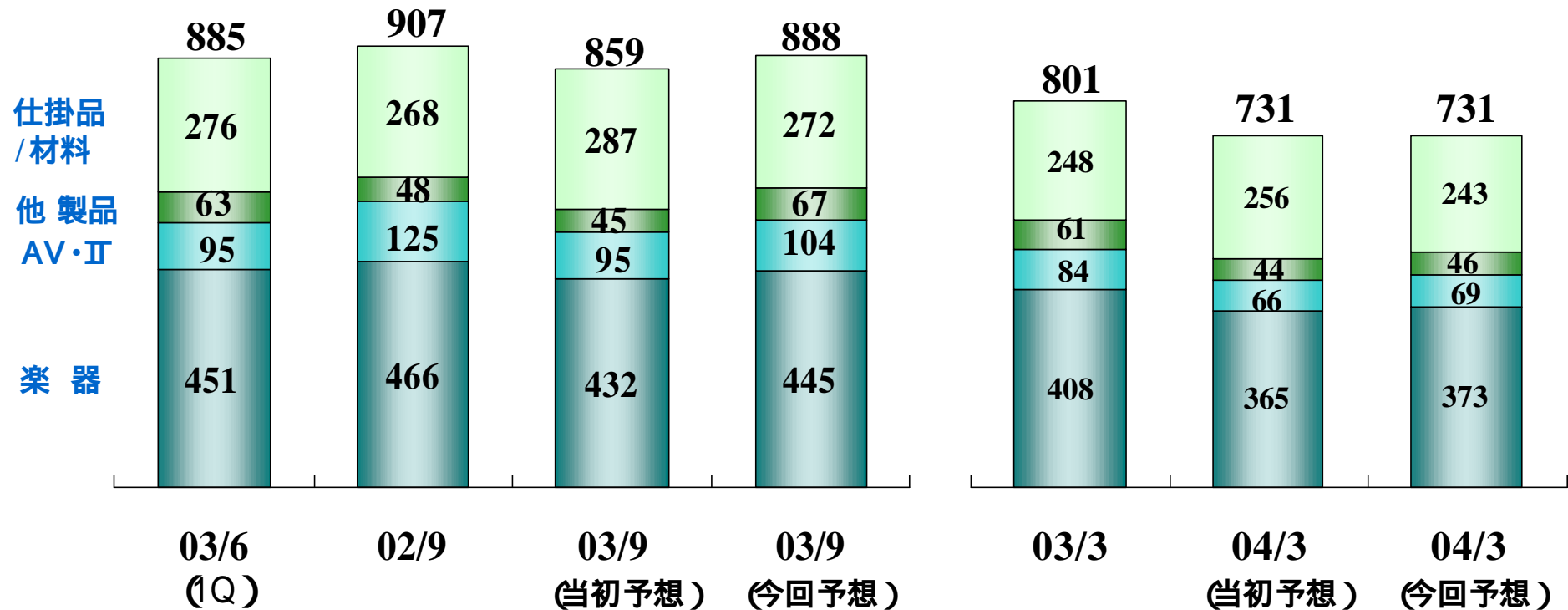
棚卸資産

➤ 1Q末在庫は当初予想に対し増加

(億円)

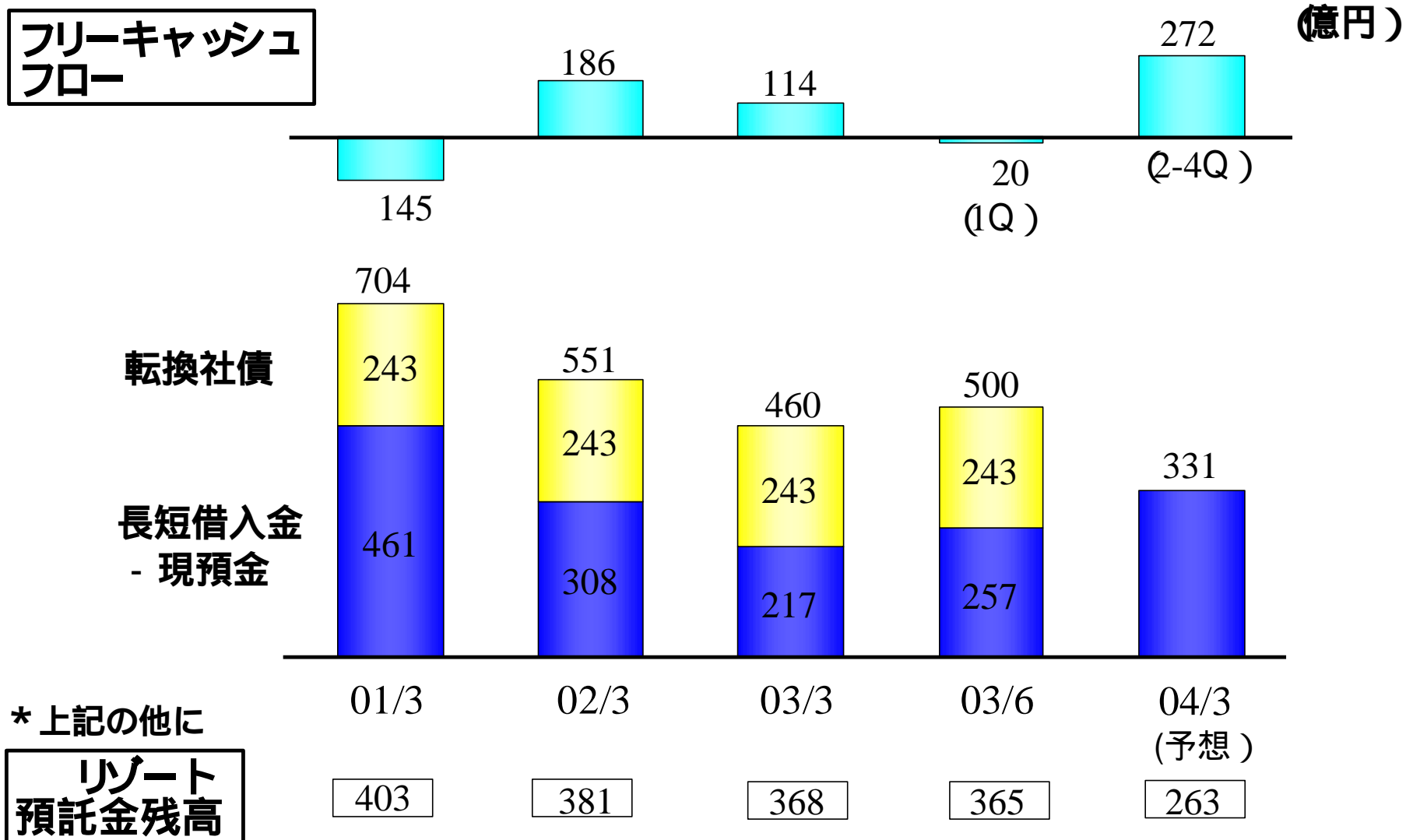
中間期末

期末



実質有利子負債

➤ 2-4Qでリゾート預託金償還約100億円発生とCBの償還



予想貸借対照表

(億円)

	02/9末	03/3末	03/6末	03/9末	04/3末
現預金	403	445	332	401	428
売上債権	814	791	819	898	775
棚卸資産	907	801	885	888	731
他流動資産	153	174	148	152	152
固定資産	2,961	2,916	2,943	2,976	3,048
資産計	5,238	5,127	5,127	5,315	5,134
仕入債務	425	395	440	467	400
借入金	855	661	589	637	759
転換社債	243	243	243	243	0
他負債	1,655	1,683	1,554	1,605	1,541
資本計	2,060	2,145	2,301	2,363	2,434
負債・資本計	5,238	5,127	5,127	5,315	5,134

* 他負債に少数株主持分を含む

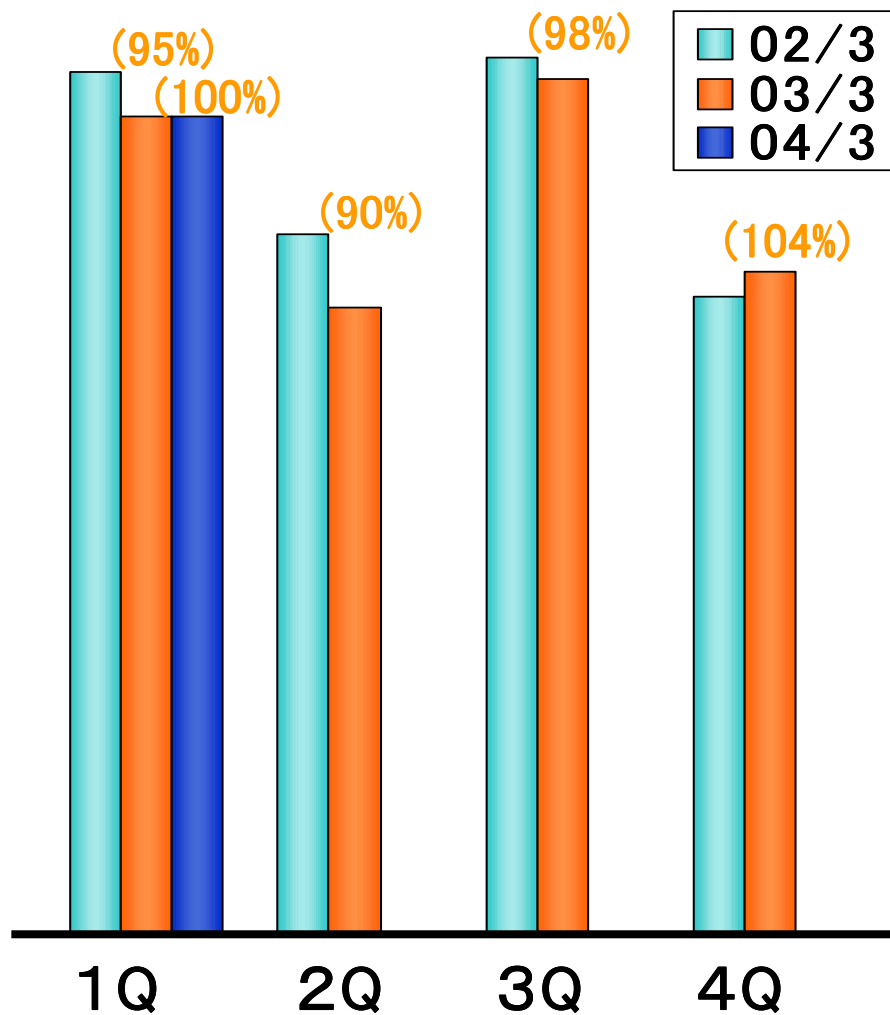
付属資料

国内ピアノ市場の動向

◆国内ピアノ出荷

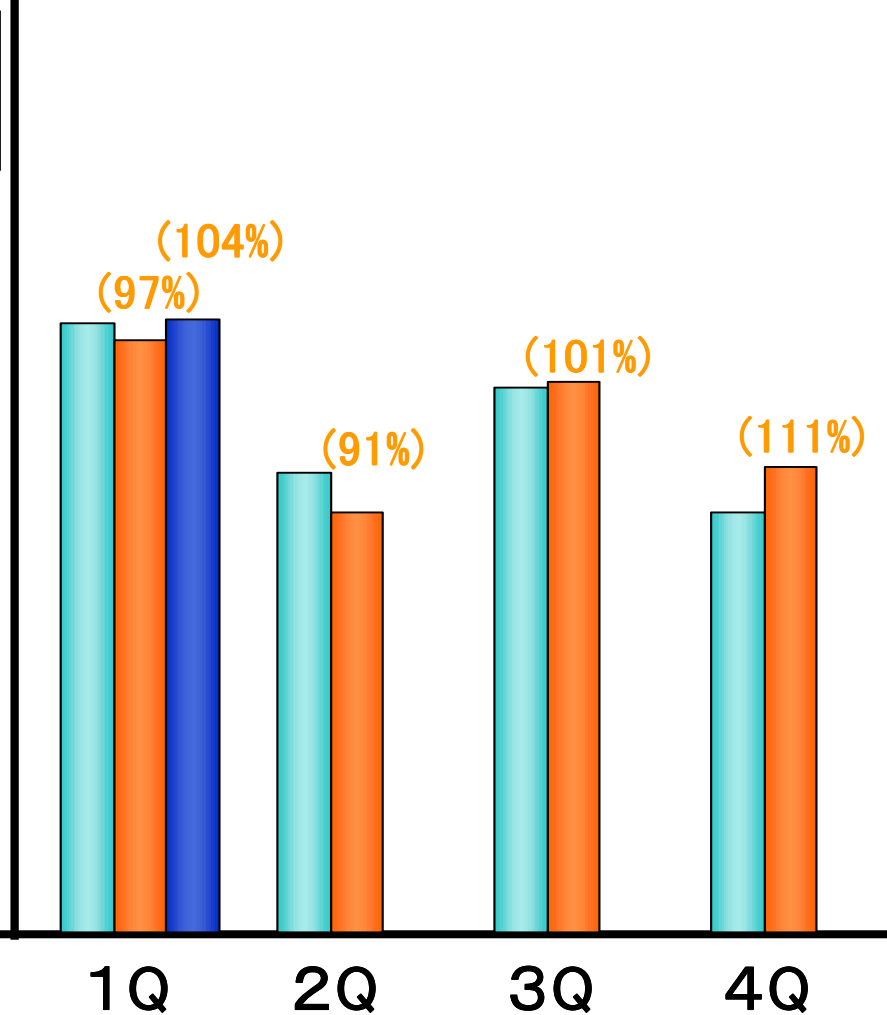
Source: 静岡県楽器製造協会・楽器月報

()内は前年同期比



◆内、ヤマハ

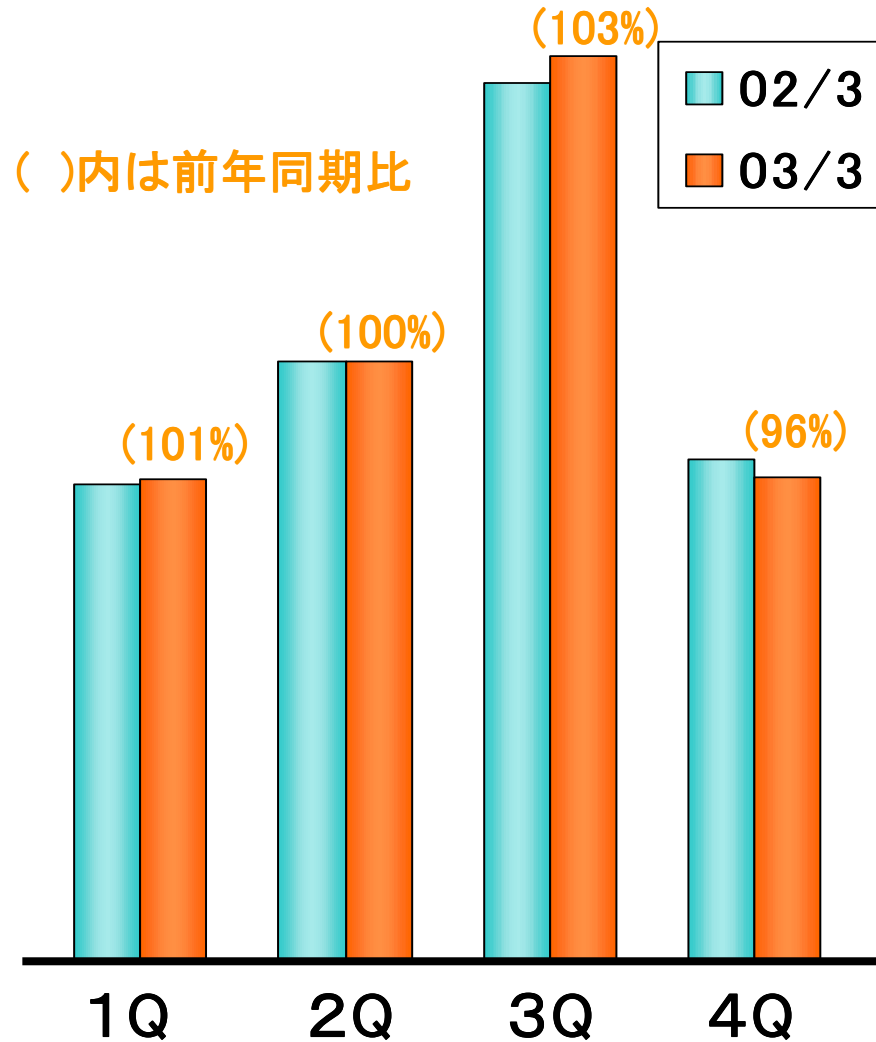
新商品効果もあり、ヤマハシェアは拡大



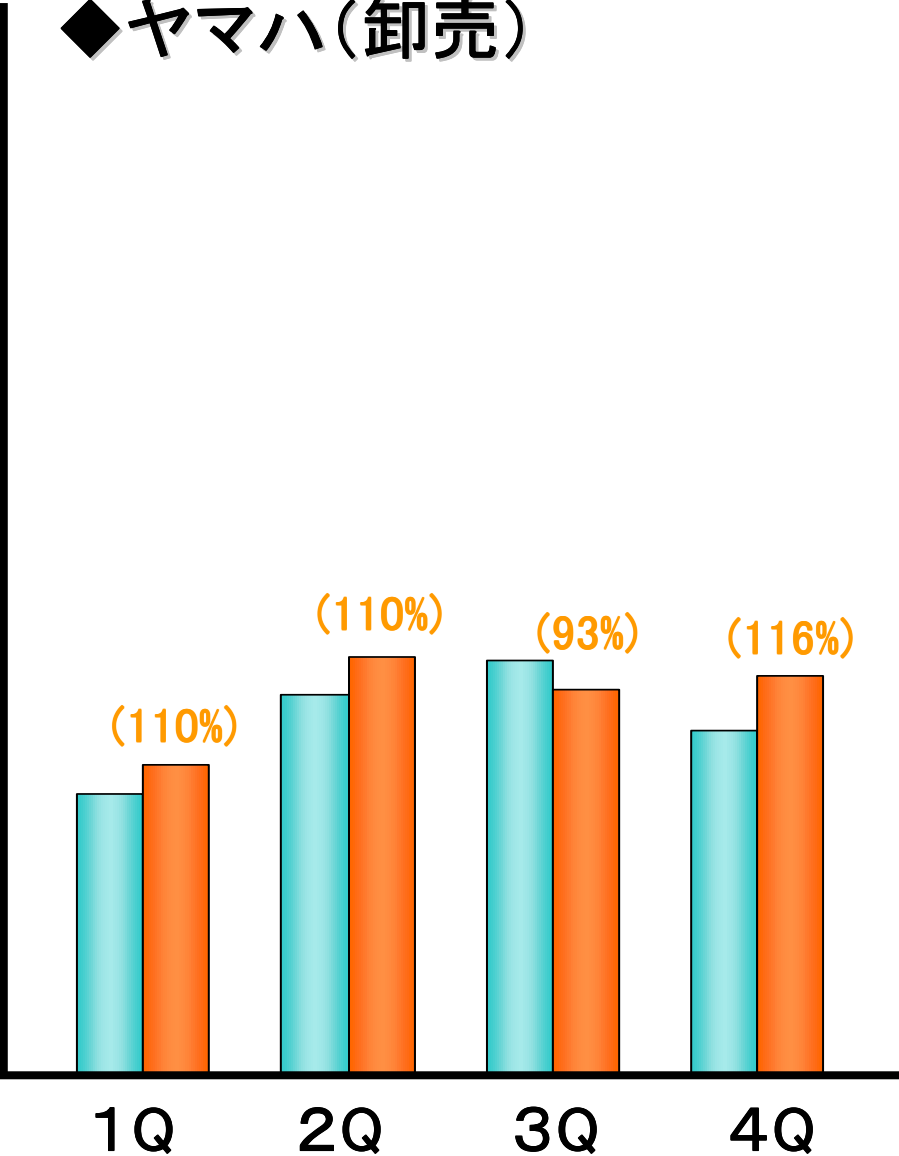
アメリカ楽器市場の動向

◆楽器全体市場(小売)

Source: Music Trade

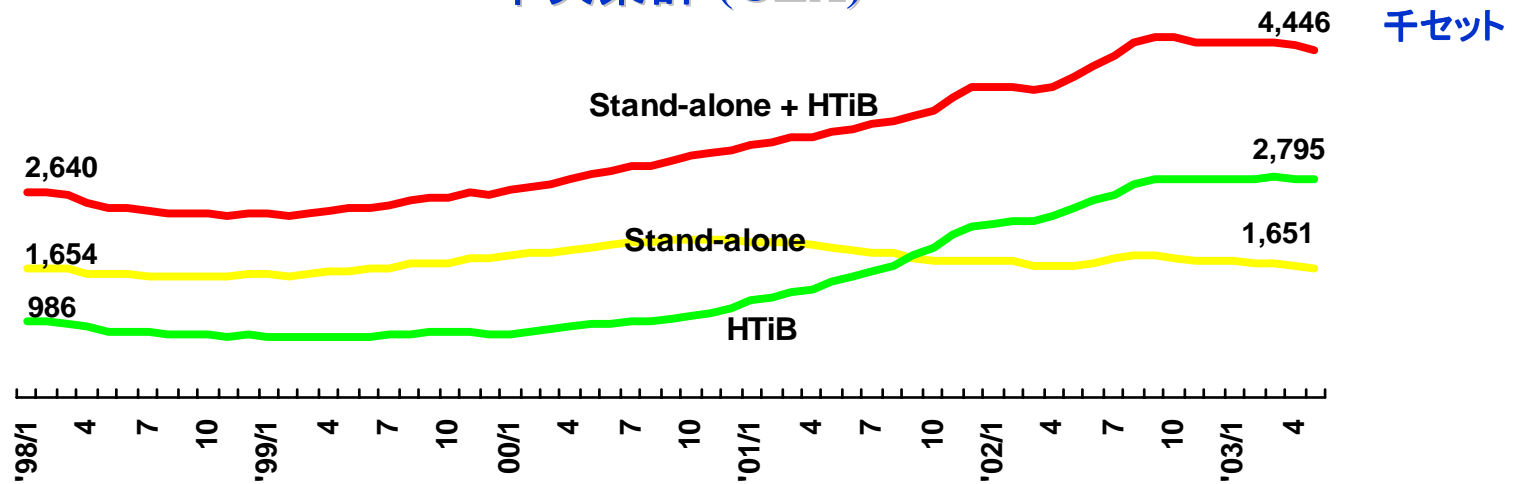


◆ヤマハ(卸売)



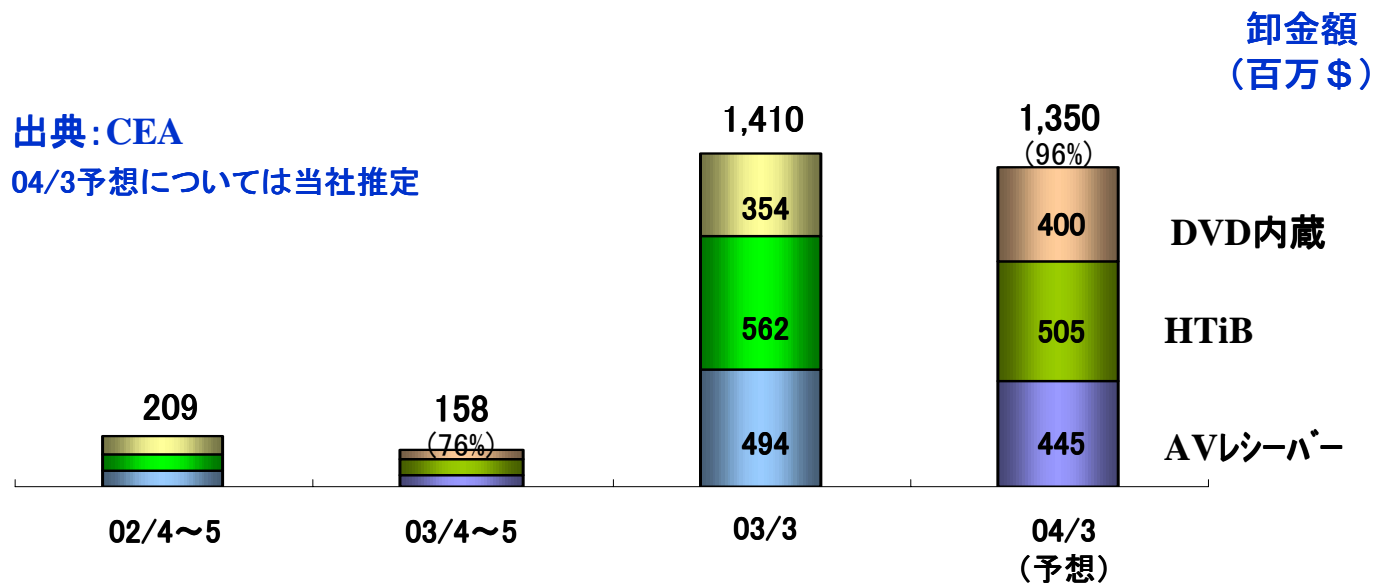
アメリカ ホームシアター台数市場規模

年次累計 (CEA)



出典: CEA

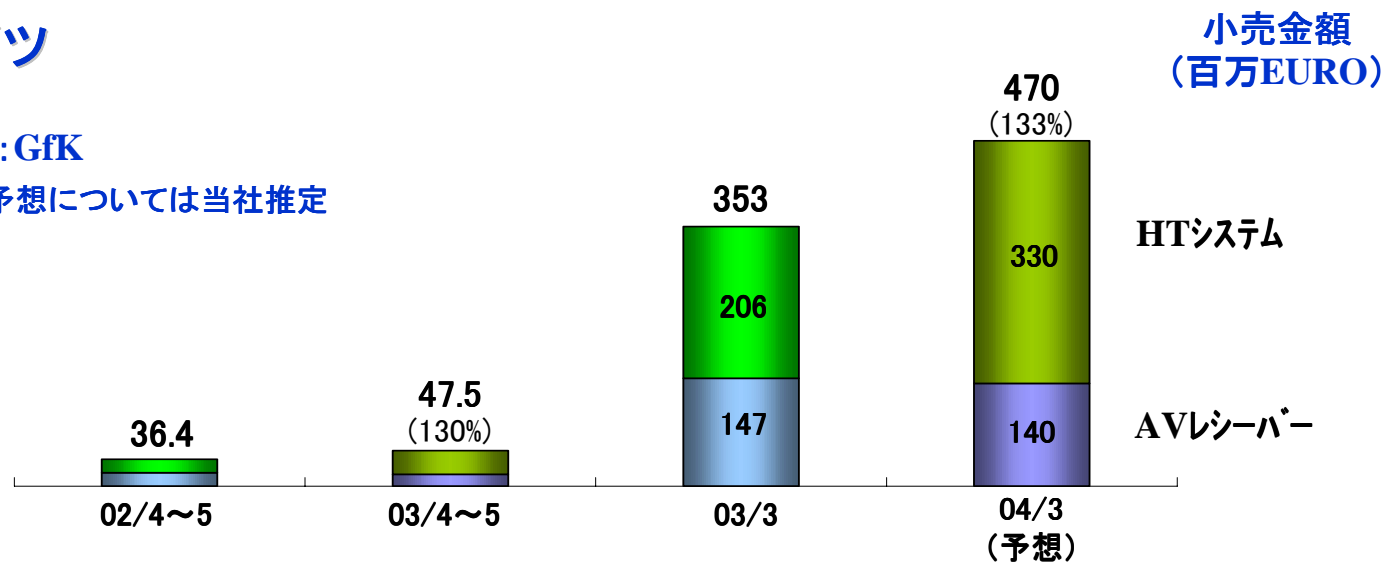
04/3予想については当社推定



ドイツ

出典: GfK

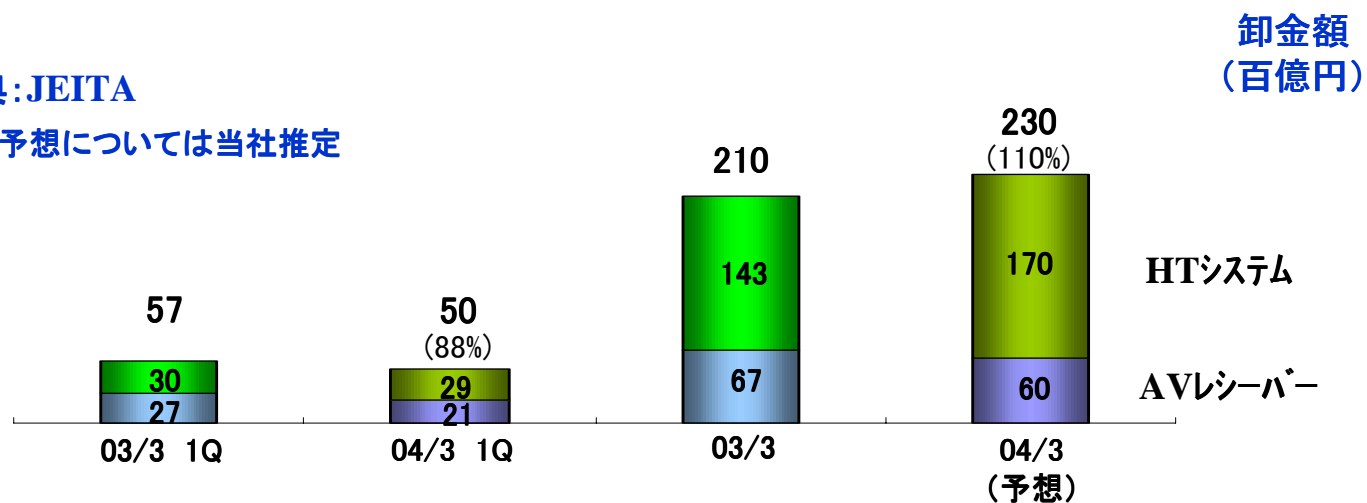
04/3予想については当社推定



日本

出典: JEITA

04/3予想については当社推定



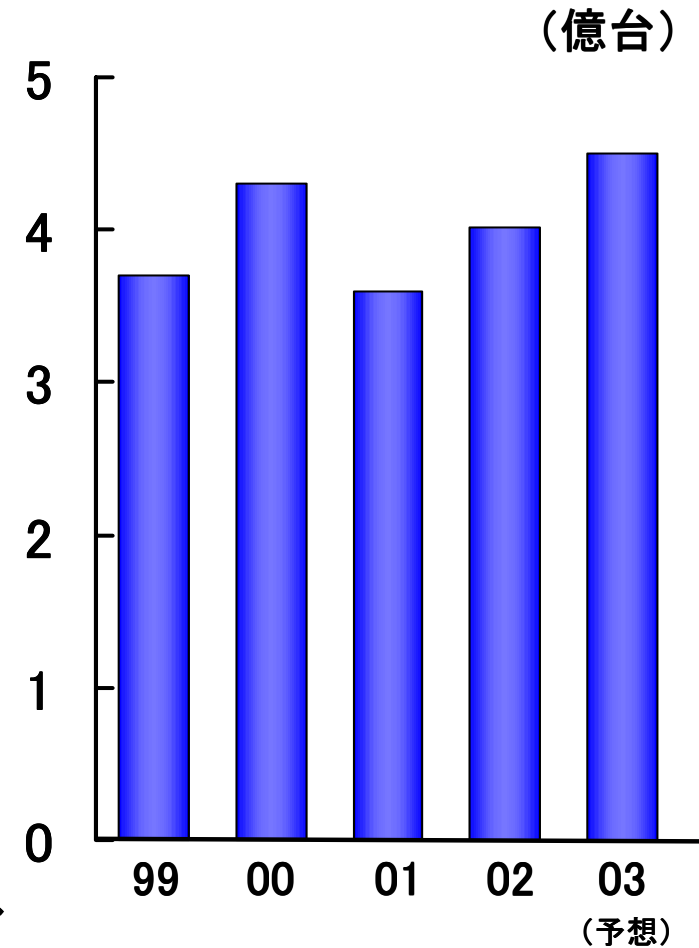
世界の携帯電話端末市場動向

■02年の概況

- ・年間販売4億台強で再度成長基調に乗り始める
- ・カメラ機能搭載による買い替えが促進中
- ・韓国サムスンが輸出を含めて急進
- ・中国市場が著しく伸長
所有台数2億台突破
特にローカルメーカーのシェアが拡大
- ・欧米ではカラー化やIP接続機能の普及に伴って和音音源搭載率が増加傾向

■03年の状況

- ・1-3月の携帯販売は対前年同期比18%増
- ・4-6月は、アジア市場がSARSの影響などで受注鈍化、在庫調整の動きあったが、7月以降は持ち直し傾向



Source: 「日経マーケット・アクセス」

携帯保有(販売)台数と音源チップビジネスの状況

	携帯保有台数	年間販売台数	携帯音源チップ市場動向
日本	7000万台	4000万台	<ul style="list-style-type: none">・所有は飽和状態、カメラ機能付きへの買い替え旺盛・殆どの携帯電話は32和音以上、今年は64和音への置き換え進行
韓国	3000万台	1500万台	<ul style="list-style-type: none">・所有は飽和状態・サムスンへの輸出拡大・今年は64和音への置き換え進行
中国	2億台	1億台	<ul style="list-style-type: none">・ローカルメーカーが急進、5割を超える・単音から和音への動き急速
欧米	5億台	2億台	<ul style="list-style-type: none">・携帯電話は高機能化による買い替え進行・和音化の動き始まる

当社音源チップ事業の強み

■ 日本市場に於けるSMAFソリューション提案への評価

- ・音源、配信フォーマット(SMAF)、オーサリングツール、コンテンツのパッケージ化が主要キャリアやメーカー採用に結びつく

■ FM音源が高評価

- ・FM音源の持つ高音域特性の良さや高い音色合成の自由度が品質的に高評価を得ている

■ 日本での成功事例が韓国で評価

- ・現地端末メーカーが輸出モデルに採用したことで世界躍進への可能性高める

■ 台湾、中国での他社に先行したプロモーション

■ 今後、欧州、米国での提案

新音源チップ MA-5の概要

■ 最大同時発音数 64音

FM音源32音 + Wave Table32音

■ 今後のコンテンツの多様化に応えるための 音色バラエティーの拡大

(例)ゲームコンテンツに対応したヒューマノイドボイス
(簡単な言葉を発声)

■ 既存顧客に現行MA-3(40和音音源チップ)からの 置き換え働きかけ中

<音源チップ>

MA1	(4和音)	99年9月発売
MA2	(16和音)	00年6月発売
MA3	(40和音)	01年12月発売
MA5	(64和音)	03年3月発売

この資料の中で、将来の見通しに関する数値につきましては、ヤマハ及びヤマハグループ各社の現時点での入手可能な情報に基いており、この中にはリスクや不確定な要因も含まれております。

従いまして、実際の業績は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、米ドル、ユーロを中心とする為替動向等により、これらの業績見通しと大きく異なる可能性があります。



YAMAHA

感動を・ともに・創る